

はじめに

伸長するアジア経済市場をめぐるグローバル競争の中で、日本が価格競争に活路を見いだすのは難しい状況です。日本経済を成長路線に乗せるには、従来製品を低コストで生産することは中国などの新興国に譲り、新たな価値の創造や付加価値を高めることで事業の発展を図らなければなりません。

また、昨今の地方創生の動きの中では、地域の特色を生かして、他の地域にない、魅力ある製品、サービスを創り出し、地域の活性化や地方への人の流れを生み出していかねばなりません。

このような状況の中で、地方公設試験研究機関の役割は重要です。経営資源が十分でない中小企業や農林水産事業者を顧客とし、日常の事業において発生する課題の解決に技術面から支援することに加えて、上記のような新たな価値や魅力ある製品、サービスの創造につながる技術を提案することも果たすべき責任であると捉えています。

我々総合技術研究所では、新たな価値や製品につながる技術を創る研究開発と、企業や事業者を技術面からサポートする技術支援の両面から業務を進めております。

今年度の成果集では、研究開発を終了し、技術移転の準備ができたテーマと、技術支援活動の中で移転事業が進行中のテーマとに分けて掲載しました。

研究開発終了テーマでは、製造業でのLCA（ライフサイクルアセスメント）ツールや金型冷却技術、電装部品の機能安全など製造工程に関する技術や、浮き楽栽培法、ブドウ収量増、水耕ねぎ根腐病、ウマヅラハギ蓄養などの農林水産系の技術を挙げております。

一方、成果移転事業では、県産酒、レモン、カキ、わけぎなど、食品、農産物などのブランド産品に関わる技術移転事例などを挙げております。

今後も、総研の顧客である中小企業や農林水産事業者の皆様のご要望や課題をよりの確に把握し、それらに応える技術を開発し、事業展開につながるよう、研究開発をもっと効率的で確実なものにしていく所存です。

我々の研究開発や技術支援の活動が、少しでも多くの県内中小企業や農林水産事業者の皆様、日常の課題解決にスピーディに確実につながること、さらには競争力の向上につながり、新製品の開発や新たな事業の展開につながっていくことを願っております。

平成27年7月

広島県立総合技術研究所

所長 松 岡 孟

目次

	ページ
総合技術研究所の研究開発と技術支援について	1
平成26年度研究課題実績結果一覧表	3
研究成果	
廃石膏を用いた重金属除去剤の開発	7
CO ₂ 見える化ソフトウェアの開発	8
冷却効率の高いダイカスト金型の開発	9
車載部品エレクトロニクス化における安全性を担保した製品開発技術	10
浮き楽(うきらく)栽培法による水稻育苗と葉菜類栽培	11
光反射シートの地表面敷設によるブドウの収量増加技術	12
培養液のpHを下げて水耕ネギ根腐病を防ぐ	13
地域ブランド化に結び付くウマヅラハギの蓄養・養殖技術の開発	14
技術支援成果	
凍結含浸技術の成果移転状況	17
広島もみじ酵母による県産酒の需要拡大	18
レモンの新しい長期貯蔵技術を実証	19
わけぎ球根の調製作業を効率化する球根調製機	20
大崎上島育ちの広島縞かきが海外で高評価	21
準不燃木材の大臣認定取得支援	22
ヤギを利用した道路予定地の維持管理	22
かき殻の新活用法を開発	23
「製紙スラッジ」固化材の開発	24
鋳物用引張・硬度試験機の開発	25
	26
資料	
平成26年度追跡評価結果	29
平成26年度受賞実績	31
広島県知的財産一覧	36
広島県立総合技術研究所各施設の連絡先	39